

## 大腸憩室出血の治療法としてのバリウム充填法の有効性についての研究

大腸憩室出血は下部消化管出血の原因として最多です。内視鏡や経動脈的治療が行われますが大腸憩室出血の多くは間欠的な出血で、出血源の特定に難渋することが少なくありません。また、治療ができた場合でも再出血率が高いとされています。近年高濃度のバリウムを用いたバリウム充填法の有効性に関する報告が散見されますが、十分なエビデンスがあるとは言い難いものがあります。また、高濃度のバリウムを用いたことによる消化管穿孔等の合併症が報告されていることから、合併症が軽減すると想定される低濃度のバリウムを用いた場合の有効性について検討する意義があると考えられます。

### 1. 研究目的

大腸憩室出血の治療法としての低濃度バリウム充填法の有効性の検討。

### 2. 研究機関

中津市民病院

### 3. 研究期間・対象患者様

中津市民病院において、2012年10月から2017年9月までに「大腸憩室出血（疑いを含む）」の病名で入院した患者様

### 4. 研究方法

上記期間の対象患者様について電子カルテを参照し、治療内容や経過などの検討。

### 5. 倫理的配慮（個人情報取り扱い）

研究対象が特定される個人情報（氏名、生年月日、電話番号、ID等）を記載しないように配慮しており、患者様が不利益を受けることはありません。

### 連絡先

中津市立中津市民病院 放射線科 日高 啓

福岡赤十字病院 放射線科 村山 佑里子

TEL : 0979-22-2480

FAX : 0979-22-2481

Email:hidaka-h@nakatsu-hosp.jp